



# インフルエンザが警報基準の目安を超えています！

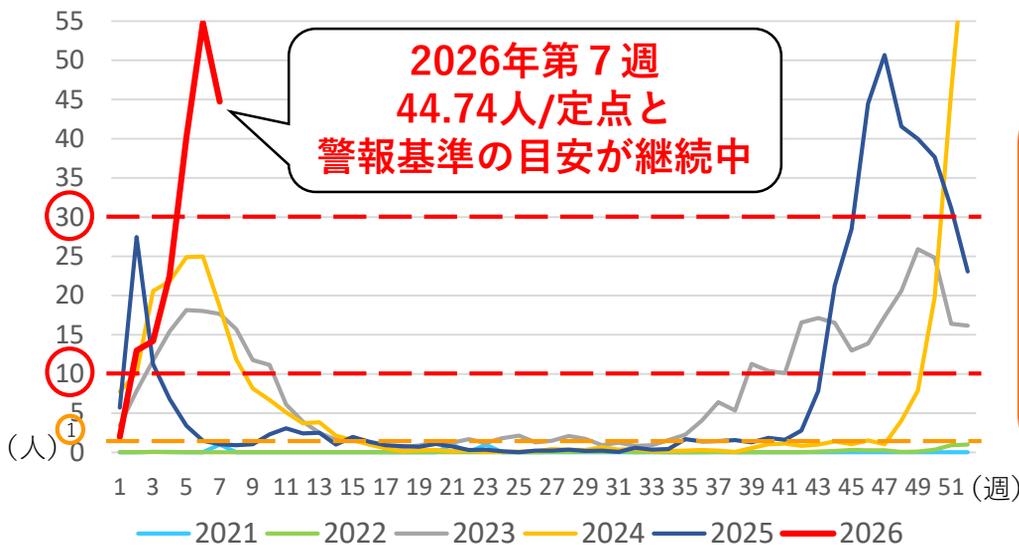
季節性インフルエンザ患者数  
(定点医療機関当たり)



流行期入り：1  
注意報：10  
警報：30

2026年第7週  
44.74人/定点と  
警報基準の目安が継続中

これまではインフルエンザA型が流行していましたが、第2週よりB型の感染も広がり始め、現在はB型の感染が大幅に拡大しています。基本的な感染対策をこころがけましょう。



参考：神戸市 感染症統合情報システム

## ◎感染対策

インフルエンザは、小児ではまれに急性脳症、高齢者や免疫力の低下している方では細菌による肺炎を伴う等、重症になることがあります。体の抵抗力を高めるために、普段から十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけましょう。

※インフルエンザワクチンは、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性が高い方には有効とされています。

### 手洗い・手指消毒

外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前など、流水・石けんによるこまめな手洗い、アルコール消毒をしましょう。

### マスクの着用

・インフルエンザの流行期に重症化リスクの高い方などが人混みに出かける際は、感染対策としてマスクの着用が効果的です。

・高齢者と会ったり、通院や大人数が集まったりする場合も、マスクを着用しましょう。

・咳やくしゃみなどの症状がある場合は、他の人への感染を防ぐため、マスク着用を含む咳エチケットを心がけましょう。



### 冬場における換気

・暖房器具近くの窓を開けると、入ってくる冷気が温められ、室温の低下を防ぐことができます。

※暖房器具については、カーテン等の燃えやすい物から距離をあけるなど、火災の予防に留意しましょう。

・短時間に窓を全開にするよりも、一方向の窓を少しだけ開けて常時換気を確保する方が、室温変化を抑えられます。



### 適度な湿度の保持

空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。特に乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度(50~60%)を保つことも効果的です。